



ARSC NEWS

The Newsletter of the Applied Regional Science Conference

No.93
February 2017

応用地域学会ニュースレター

CONTENTS

1. 2017・2018年度副会長選挙案内
2. 第30回研究発表大会報告
3. 2016年度坂下賞
4. 2016年度応用地域学会論文賞
5. 第31回研究発表大会のご案内
6. 第7回アジア地域科学セミナーのご案内
7. 会員の入退会
8. 2017年度会費納入のお願い
9. 総会報告
10. 事務局だより

1. 2017・2018年度副会長選挙案内

選挙管理委員 **伊藤 亮** (東北大学)
大西 正光 (京都大学)

応用地域学会会則第7条により、現会長文世一教授(京都大学)の任期が2017年3月31日で満了となり、引き続き、現副会長安藤朝夫教授(東北大学)が会長に就任されます。

それに伴いまして、次期(2017年4月1日～2019年3月31日)副会長の選出を、会則第7条および応用地域学会選挙内規Ⅱに基づき実施いたします。内規に基づき、副会長候補者選出のために実施された、運営委員による投票の結果、次の3名の方が次期副会長候補者に選出されています。

次期 副会長候補者 (苗字アイウエオ順、敬称略)

大澤 義明 (筑波大学) 瀬古 美喜 (武蔵野大学) 高橋 孝明 (東京大学)

副会長選挙は、この3名を候補者とし、全会員の投票(投票はがきの郵送)により1名を選出します。なお、投票の結果、1位の者が同票の場合は、選挙内規により、会員歴の長い方を選出します。

投票はがきには、上記候補者の氏名があらかじめ印刷されていますので、次期副会長に適任であると思われる方1名に、○を付してご投函ください。

投票の締め切りは、2017年3月6日(月)(当日消印有効)です。

なお、会則7条では、副会長の次期会長への自動昇任を規定しており、今回選出される副会長の、会長としての就任期間は2019年4月1日～2021年3月31日となります。

2. 第30回研究発表大会報告

大会実行委員長 浜口 伸明 (神戸大学)

1. 大会概要

第30回応用地域学会神戸大会は、2016年11月26日（土）、27日（日）の2日間にわたり、神戸大学六甲台キャンパスにおいて開催されました。大会期間中には、個別の研究発表セッションにおいて各会員の研究成果が報告されるとともに、特定セッション、チュートリアルセッション、坂下賞受賞講演、学会総会などが開催されました。

大会の実施・運営は、学会会長である文世一先生（京都大学）および学会事務局の協力を得て、神戸大学の工学研究科、海事科学研究科、経済経営研究所に所属する教員をメンバーとする大会実行委員が担当しました。また、研究報告のプログラム編成については、高橋孝明先生（東京大学）を委員長とする6名のプログラム委員が担当しました。

開催期間中は延べ167名の参加がありました。このうち、全国から会員でない研究者、行政官、ビジネス界からの参加者が17名あり、地域の防災や地方創生の議論が高まる中、本学会の活動は社会的にも高い関心もたれていることが伺われました。以下では、今回の大会における研究発表とチュートリアルセッション、坂下賞受賞講演、学会総会のそれぞれについて、概要を紹介します。

2. 研究発表大会

研究発表セッションでは、2日間で計57編の研究論文が報告されました。これらのセッションは、各会員の研究論文・研究成果の報告からなっており、研究テーマごとに計4つのセッション会場が設けられました。

研究発表セッションでは、応用地域学会が対象とする研究分野で中心的なテーマとなっている、「集積の経済」、「交通」、「都市空間構造」、「都市システム」、「立地」、「住宅と住宅地」、「応用一般均衡」、「国際貿易・開発経済」などのセッションが設けられました。交通については「インフラストラクチャー整備」「交通政策」「ネットワークと規模の経済」のサブテーマごとに3つのセッションがありました。そのほかにも、実社会の問題意識を反映した「震災」、「エネルギー・環境」、「ジェンダー・家族」、「租税競争・補助金競争」「チャイルドケア」「地域産業政策」「女性・人種と通勤」などのセッションが開催されました。これらのセッションでは、当該テーマを研究している複数の専門家による研究成果の報告がなされました。

特定セッションでは、「神戸未来戦略を考える公開シンポジウム」が開催されました。前半の講演の部では、小田啓二先生（神戸大学研究推進担当副学長）が「神戸未来戦略と神戸大学の取り組み」について、小泉周先生（自然科学研究機構）が「医療・健康・市民とのコミュニケーション」について、中村良平先生（岡山大学）が「イノベーションを生み出す地域の産業連関」について、それぞれ講演を行いました。午後のセッションでは、神戸市の稲松俊彦政策企画部長が神戸市のVision 2020に関して講演したあと、前半の講演者を交えてパネルディスカッションを行いました。

「Earlybird」と題したセッションは、大学院生による研究論文の報告を集めた企画であり、本格的な研究活動を開始した若手研究者に対して、豊富な実績と経験を持つ研究者が座長あるいは討論者として建設的なアドバイスを与えつつ、独り立ちした研究者として育つよう鼓舞する場です。今回の大会では、将来の地域科学分野における研究活動を担う有望な若手研究者による12編の報告が行われました。

なお、大会開催前日には、前年の東京大会（慶應義塾大学）から始められた新たな取り組みとして、学生や若手研究者を対象に分析手法の紹介と解説を行うチュートリアルセッションを実施しました。今回は、「土木計画学における空間・経済・統計分析セミナー」と題して、神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻計画学研究グループに所属する3人の会員により、「空間統計学入門」（瀬谷創先生）、「統計的因果推論」（織田澤利守先生）、「空間的応用一般均衡分析」（小池淳司先生）の講義が行われました。本企画は、工学分野の学生のみならず、分析に空間的要素を取り入れようとする関心が高まっている経済学分野の学生にも好評で、合計62名が受講しました。

総じて、地域にかかわる多様なテーマについて時宜に即した会員の最新の研究成果の報告に対して、討論者やフロア参加者から多くのコメント・アドバイスが寄せられ、また若手研究者を育成・鼓舞するための企画も用意されて、大変活気のある研究発表大会になったと考えております。

3. 2015年度 坂下賞記念講演

今大会では、2015年度の坂下賞受賞者である中島賢太郎先生（東北大学）により、“Identifying Neighborhood Effects among Firms: Evidence from Location Lotteries of the Tokyo Fish Market”というテーマで講演していただきました。あまり知られていませんが、日本最大の鮮魚卸売市場である築地市場では、その場内において卸売業者は立地場所により集客力の不公平が生じることを避けるために、定期的にくじ引きにより店舗の場所がシャッフルされています。中島先生はこのことが事業者の立地がランダムに決まっている状況を作り出すことに注目し、そのような条件下でも近隣の事業者から外部効果を受けていることを検証することにより、集積の経済の存在を見出すことができるという、ユニークな研究結果について解説されました。



2015年坂下賞記念講演の様子

受賞講演では珍しいことですが、今回は講演者の強い希望に応じていただいて、中嶋亮先生（慶應義塾大学）が問題意識、分析方法、結果の頑健性、解釈について、幅広く討論を行いました。

4. 総会

坂下賞受賞講演終了後、17時40分から18時20分にかけて、2016年度の学会総会が開催されました。総会では、2016年度の活動報告および学会活動方針、会員異動の現状、2015年度決算および2017年度予算の報告が行われ、いずれも承認されました。

続けて、2016年度の坂下賞が、相浦洋志先生（大分大学）に授与されることが、選考委員会委員長の曾道智先生（東北大学）より報告され、授賞式が執り行われました。受賞理由は、空間競争の枠組みを用いて、租税競争、都市の出生率、公営病院の民営化などの問題について行った応用研究における顕著な業績と学会に対する貢献によるものです。

続けて、2016年度の応用地域学会論文賞が石川路子先生（甲南大学）と福重元嗣先生（大阪大学）による研究論文「Dissatisfaction with Dwelling Environments in an Aging Society: An Empirical Analysis of the Kanto Area in Japan」（Review of Urban & Regional Development Studies, 第27号3巻（2015年）掲載論文）に対して贈られることが、選考委員長の堤盛人先生（筑波大学）により報告され、授賞式が執り行われました。本論文は、関東地方の人々の転居に関する希望と住居環境の不満足度の関係について独自に行った大規模なアンケート調査結果を分析したもので、年齢や生活費、家族・知人との関係にも焦点を当てています。高齢化に直面する日本の住宅政策や都市政策に有益な知見を与えるものとして評価されました。

最後に、第31回研究発表大会が、2017年11月25日（土）および26日（日）の日程で、東京大学にて開催されること、および第7回アジア地域科学セミナーが2017年9月8日（土）～10日（月）の日程で、National Taiwan Universityにおいて開催されることが、報告されました。

3. 2016年度坂下賞（Sakashita Prize）

2016年度坂下賞選考委員会 委員長 曾道智（東北大学）

2016年度の坂下賞は、相浦 洋志先生(大分大学)に決定しました。

2016年度 坂下賞 受賞者

相浦 洋志（大分大学経済学部 准教授）

授賞理由

相浦氏は、空間競争の枠組みに精通し、その精緻化を行うとともに、他分野へと拡張することで興味深い成果を上げてきた。2008年Regional Science and Urban Economicsに掲載された論文は立地により原材料の調達費用が異なる場合の空間競争を想定し、その下では、複数均衡が生じること、そして非対称な均衡の方が効率性の観点からは望ましいことを示した。2010年Annals of Regional Scienceに掲載された論文は需要が不確実な下での空間競争を扱っており、ライバルの立地行動から消費者についての情報を入手できると、先に意思決定を行う企業が、後続の企業に情報を隠す行動をとることを示した。2013年Journal of Public Economicsに掲載された論文はcross-border shopping が存在する下での租税競争を定式化し、地方政府が従量税と従価税のどちらを選択するのか、そして、その意思決定は効率的かを明らかにした。2014年Canadian Journal of Economicsに掲載された論文は単一中心都市モデルに出生率の決定を導入し、都市内部での出生率のパターンを再現できる枠組みを構築した。現在、相浦氏は、空間競争の枠組みで、公営病院の民営化の是非を問う研究を行い、継続的に活躍してきたことが分かる。



2016年坂下賞授賞式の様子

また、相浦氏は報告者や討論者としてARSC研究報告大会に参加し、学会に貢献している。よって2016年度坂下賞を相浦 洋志氏に授与することとする。

2016年度 坂下賞選考委員会

委員長 曾 道智（東北大学）

委員 多々納 裕一（京都大学），城所 幸弘（政策研究大学院大学）
文 世一（ARSC 会長），安藤 朝夫（ARSC副会長）

坂下賞の表彰は、応用地域学会総会の中で行われ、相浦氏には、文世一会長から、表彰状（盾）と金一封が授与されました。

4. 2016 年度応用地域学会論文賞(Best Paper Award of ARSC)

2016年度応用地域学会論文賞選考委員会 委員長 堤 盛人（筑波大学）

選考委員会では、応用地域学研究ならびにRURDSに掲載された学会員の論文を対象に、慎重に審議した結果、2016年度の応用地域学会論文賞は下記の論文に授与することとした。

2016年度 応用地域学会論文賞 受賞論文

著者名：石川 路子（甲南大学経済学部経済学科），福重 元嗣（大阪大学大学院経済学研究科）

論文名：Dissatisfaction with Dwelling Environments in an Aging Society: An Empirical Analysis of the Kanto Area in Japan

掲載誌：Review of Urban & Regional Development Studies 27 (3) (2015) pp.149-176

授賞理由

本論文は、独自に大規模なアンケート調査を実施して、関東地方の人々の転居に関する希望と居住環境の不満足度との関係について分析したものである。その結果、交通、店舗、医療施設へのアクセスが転居において重要な要因となることを明らかにしている。人々は交通、店舗、医療施設へのアクセスが容易な豊かな地域へ転居を望む一方で、そのような地域においては居住に必要な生活費が高くなるため、居住環境への不満足が解消されないこと、高齢になるに伴い生活費や家族・知人との関係も重要な要因になることなども明らかにしている。

これらの結果は、高齢化に直面する日本やその他の国々における住宅政策や、いわゆるコンパクトシティなどの都市政策の意義を考える上で、有益な知見を与えるものであると高く評価できる。

以上のように、本論文は計量経済学の標準的な手法を用いつつ、独自の調査に基づく貴重なデータを構築することで、地域の今日的な政策課題への挑戦に対して多くの示唆を得ることに成功した模範的な論文であり、応用地域学会論文賞にふさわしいものであると認める。

2016年度 坂下賞選考委員会

委員長 堤 盛人（筑波大学）

委員 高橋 孝明（東京大学），河端 瑞貴（慶応義塾大学）
文 世一（ARSC 会長），安藤 朝夫（ARSC副会長）

応用地域学会論文賞の受賞者には、表彰状（盾）が授与されました。

5. 第31回研究発表大会のご案内

ARSC事務局

2017年度のARSC研究発表大会は、東京大学が開催校となり、大会実行委員長田淵隆俊教授（東京大学）を中心に、下記要領にて実施されます。奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

大会概要

日 程： 2017年11月25(土)～ 26日(日) * 総会、懇親会は11月25日を予定
会 場： 東京大学
発表申込み〆切： 2017年9月初旬(予定)
論文提出〆切： 2017年10月末(予定)

発表申込先、および受付開始時期などを含む詳細については、ARSC NEWS次号（2017年6月発行予定）、メーリングリスト、ホームページ（予定）で、ご案内していきます。

6. 第7回アジア地域科学セミナーのご案内

ARSC事務局

アジア地域科学セミナーは、アジア諸国における地域科学の研究発展と交流を促進するために、応用地域学会（ARSC）、中国地域学会（RSAC）、台湾地域学会（CRSA）、韓国地域学会（KRSA）が共催して開催しています。

第7回アジア地域科学セミナーは、National Taiwan UniversityとChinese Regional Science Association Taiwanの主催により、National Taiwan Universityで開催されます。皆さま、奮ってご参加くださいますようご案内申し上げます。

第7回アジア地域科学セミナー概要

日 程： 2017年 9月 8日(金)～10日(日)
会 場： National Taiwan University (Taipei City, Taiwan)
セミナー参加費： 一般 200 USDル（学生100 USDル）
セミナーHP： <http://7thasrs.weebly.com/>
開催担当： Chinese Regional Science Association Taiwan

論文発表、参加の申込み

論文発表・参加の申し込みは、下記URLから各自お申込みください。* セミナーHPにて、アカウントの作成が必要です。

(Registration to Attend) <http://7thasrs.weebly.com/registration.html>

(Call for Papers) <http://7thasrs.weebly.com/call-for-paper.html>

アブストラクト 送付期限：2017年 3月 31日(金)

発表論文提出期限：2017年 7月 15日(土)

7. 会員の入退会

ARSC事務局

2016年度総会（2016年11月26日）において、2015年度総会以降に入退会を申請された以下の方々の入退会が承認されました（順不同・敬称略）。

入 会:

（一般7名）佐藤遼（東京大学），今永典秀（岐阜大学），中島ゆき（法政大学），大久保敏弘（慶應義塾大学），栗野盛光（筑波大学），山崎雅人（名古屋大学），大平悠季（鳥取大学）
（学生13名）定行泰甫（一般財団法人土地総合研究所），永井哲平（東京外国語大学），汪蕾（東京国際大学），岡本千草（東京大学），符皓然（東北大学），吉田崇紘（筑波大学），辻本隆宏（筑波大学），黒田雄太（東北大学），李媛（東北大学），菅澤武尊（東北大学），芝啓太（大阪大学），長宗武司（岡山大学），福村晃一（大阪大学）

同時に以下の方々の退会が承認されました（順不同・敬称略）。

退 会:

（一般11名）今井重男（千葉商科大学），阪本一郎（明海大学），宍戸栄徳（香川大学），永井輝一（三井不動産(株式会社)），綿貫伸一郎（大阪府立大学），大守隆（東京都市大学），波多野進（関西外国語大学），朝田康禎（熊本大学），田村龍一（一橋大学），横田学（独立行政法人都市再生機構）
（海外1名）朴 赫緒
（学生9名）川岸卓司（筑波大学），役重道明（明海大学），石川慎之助（株式会社つくばFC），呉蕾（立命館大学），吉井淳（筑波大学），高森賢司（筑波大学），橋本賢一（明海大学），田中亨憲（大阪大学），成知恩（京都大学）
（物故会員1名）森杉 壽芳（東北大学）

この結果、2016年11月27日現在の会員数は、下表のとおりとなりました。

（一般会員438人、学生会員58人、海外会員5人、賛助会員5法人(7口)）

		2015年11月	入会	退会	転格	2016年11月
個人会員	一般会員	430	7	-11	12	438
	学生会員	66	13	-9	-12	58
	海外会員	6	0	-1	0	5
	合計	502	20	-21	0	501
賛助会員		5(7口)	0	0	0	5(7口)

8. 2017年度会費納入のお願い

ARSC事務局

会員データベース（2017年2月1日現在）に基づいて発行された請求書をお送りします。

ご請求額を2017年4月30日までに応用地域学会の郵便振替口座(00120-1-253855)にお振込み下さい。

送られた請求額について疑義のある場合には、学会事務局まで、メール(clerk@arsc.org)にてお問い合わせ下さい。なお、お振込みの際には、ご面倒でも振替用紙の通信欄に振込金額の内訳（対象年度等）を必ずご記入下さい。（振込用紙は、請求書に同封して、送付いたします。）

皆様それぞれの会費納入状況は、ARSCホームページ(<http://www.arsc.org/>)の会員ページ(会員ログイン)で、確認できます。（会員ページにログインできない方は、上記学会事務局にお問い合わせください。）

(1) ARSC会費

2017年度会費は、一般会費 10,000円、学生会員 5,000円、賛助会員 1口 50,000円です。

また、海外会員(日本人の短期滞在者を除く)は、ARSC年報(応用地域学研究)を購読される場合\$80、購読されない場合\$60です(RURDSは、全員に配布)。なお、海外会員でも国内会員と同等とする場合は、10,000円となります。

* 海外からのお支払いの場合は、日本国内の知人等を経由して日本円でお支払い頂くのが最善ですが、それが不可能であれば、国際郵便為替、または各国の銀行で振り出されたUSドル建ての小切手をご利用下さるようお願いいたします。

(2) RSAI(国際地域学会)会費

2017年のRSAI会費は、一般会員 1,200円、学生会員 800円 です。

<RSAI会費とサービス>

RSAIの会員に対するサービスは、以下ようになっております。応用地域学会を通じて、RSAI会員である方は、ARSC会費と合算してお振込みください。払込票通信欄には、送金内訳を記入してください。

なお、2015年から、RSAIの会員サービスが変更となり、ジャーナル等のプリントの郵送サービスが廃止され、オンラインサービスのみとなりました。

(2015年から、従来のRSAIのプリント郵送サービスを受ける会員区分Aは無くなり、オンラインサービスを受ける会員区分Bのみとなり、従来の会員区分Aの方は、会員区分Bに変更しております。)

<RSAIのサービス内容 >

- ・Papers in Regional Science(PIRS)、ニュースレター等のオンラインサービス
- ・RSAIホームページへのアクセス
- ・RSAIの会議への参加費割引
- ・メンバーリストへのアクセス
- ・Journal of Regional Science などのWiley-Blackwell社の雑誌の購読料割引と関連出版物の詳細情報の提供

<RSAI会員の継続・入退会について>

ARSCを通じてのRSAIへの入退会は、年1回、11月までに、翌年のメンバーリストを提出することでなされますので、毎年10月頃に、入退会・継続、登録情報変更のご案内をいたします。

従来からのRSAI会員の方は、特に退会の申し出のないかぎり会員を継続されると判断します。また、学生から一般への変更は、国内会員の移動転格に合わせます。

9. 総会報告

ARSC事務局

2016年度の総会は、大会中の11月26日（土）に行われました。概要は以下の通りです。

1) 学会活動報告及び活動方針

文世一会長より、2016年度の活動状況と、今後の学会の運営方針が示されました。

2) 会員異動報告（前掲）

3) 2015年度決算（末尾の表を参照）

監査委員（中島賢太郎先生(東北大学)、塚井誠人先生(広島大学)）の監査を受けた2015年度決算書が報告され、原案どおり2015年度決算案が承認されました。

4) 2017年度予算（末尾の表を参照）

原案どおり2017年度予算が承認されました。

5) 2016年度坂下賞(前掲)

2016年度坂下賞は、大分大学の相浦洋志氏に授賞されました。

6) 2016年度応用地域学会論文賞(前掲)

2016年度論文賞は、石川路子氏（甲南大学）、福重元嗣氏（大阪大学）“Dissatisfaction with Dwelling Environments in an Aging Society: An Empirical Analysis of the Kanto Area in Japan,” *Review of Urban & Regional Development Studies* 27 (3) に授賞されました。

7) 第31回（2017年度）研究発表大会の開催について（前掲）

8) 第7回（2017年度）アジア地域科学セミナーの開催について（前掲）

9) ジャーナルの編集状況及び今後の方針について

<RURDS>

RURDSの編集については、編集委員長黒田達朗先生（名古屋大学）から、

- ・年3回（3月・7月・11月）に発行すること
- ・Impact Factorを上げる努力が必要であり、そのためにはRURDSの引用が重要であること
- ・剽窃チェックは厳密に行っていること
- ・2017年3月号からEditorial Boardの大幅な刷新を図り、今後はBoardを中心にレフェリーを依頼すること

- ・学会の財政赤字はRURDSによるところが大きい（会員1人あたり年間6380円を支払っている）、会費滞納者（一般会員3年，学生会員1年）には送本を停止すること
- ・2018年よりWileyからの印税が5%→8%に増額されること
等が報告されました。

<応用地域学研究>

応用地域学研究の編集委員長代理の小林隆史先生（立正大学）から，No. 20 号の発刊について報告されました。また，本年度は投稿数が少ないため，会員には積極的に投稿をお願いしたいこと，査読を担当する会員に向けては，褒めて伸ばす査読の推奨についてのお願がありました。

10) 学会ホームページ：バナー広告について

安藤朝夫副会長より，学会ホームページにバナー広告を載せることが決まり，現在，バナー広告の要綱を作成中であることが報告されました。

10. 事務局だより



第

30回ARSC研究発表大会は、神戸市（神戸大学六甲台キャンパス）で開催されました。大会委員長の浜口伸明先生（神戸大学）をはじめとし、大会運営委員の先生方のご尽力により、また会員の皆さまのご協力により、素晴らしい大会となりました。深く感謝申し上げます。また、プログラム委員長を勤められた高橋孝明先生（東京大学）とプログラム委員の先生方のご苦勞に対し、また様々な側面でご協力いただきました皆様に、同じく深く感謝申し上げます。



26日の総会では、長年にわたり当学会事務局長としてご尽力いただきました宮本成雄さんに、文 世一会長より感謝状が贈られました。

宮本さん，長い間，本当にお世話になりました。どうもありがとうございました。

副

会長の選挙です。この選挙で選ばれた副会長は、2017年度からの2年間の副会長を務められたのち、規約により、2019年度からの2年間ARSCの会長となります。大事な選挙です。投票は、別途ご案内のとおり、送付された選挙はがきに、副会長にふさわしいと思われる方を選び、投函・郵送することによって行われます。投票締め切りは、3月6日(月) 当日消印有効です。お忘れなきようお願い申し上げます。

会

員登録情報の変更をお願いいたします。新しい年度への移り変わりの時節、勤務先の異動、就職など、皆様の会員登録の内容を変更される方も多々いらっしゃると思います。登録情報に変更が生じた場合は、速やかに、ARSCホームページにある「会員ページ」<<https://service.kktcs.co.jp/smms2/loginmember/arsc>>にログインし、変更登録をお願い申し上げます。（ログインID、パスワードをお忘れの方は、事務局<clerk@arsc.org>にお問い合わせください。）住所・メールアドレス等が変更登録されていないと、ジャーナルや、ニュースレター等が不達になるケースが多々生じておりますので、重ね重ねですが、速やかな変更登録をお願いいたします。

地

域科学に関連する分野の研究に興味を持たれている個人、または団体が周囲に居られましたら、是非入会をお勧め頂くようお願い致します。入会申込は、web上で行えます。ARSCのホームページ(<http://www.arsc.org>)より、「新規入会」のページにアクセス、又は、直接(<https://service.kktcs.co.jp/smms2/entry/arsc>)にアクセスし、必要事項を記入し、送信してください。

編集 後記

多くの研究者にとってアメリカという国は憧れの場所の一つであろう。その国のトップレベルの大学はこれまで世界中から優秀な頭脳を集めてきた。日本を含むアジアの国々においても、アメリカの一流大学で Ph.Dを取得することは有能な研究者としての証であり、一つのステータスにもなっているように思う。

新しい大統領はその国の形を変えようとしている。中東から日本に留学している若き研究者は、アメリカで近く開催される国際会議に出席できなくなったことを憂いていた。人の動きだけではない。貿易や企業の立地に対しても大きな制約を課すという。これまで最も自由だった国は、最も不自由な国の一つになり、その影響は世界中に及ぶだろう。その国の軌道修正を促す上で、地域科学の果たす役割は大きいのではないだろうか。(TH)

ARSC NEWS No.93 (2017年2月発行)

発行元 応用地域学会事務局 (文部科学省学会コード=10023)

会長: 文 世一

ARSC NEWS 担当: 高塚 創 (渉外担当幹事) / 田宮 すみ恵 (事務局)

〒162-0805 東京都新宿区矢来町126 NITTOビル (株)メッツ研究所内

TEL: 03 (5227) 7804 / FAX: 03 (5227) 7807

Email: clerk@arsc.org / 学会HP: <http://www.arsc.org/jp/>

2015年度(2015年4月1日～2016年3月31日)決算

2015年度(2015年4月1日～2016年3月31日)決算

収入の部	2014決算		2015予算		2015決算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.繰越金	5,076,513		4,482,568		4,482,568	
2.個人会費収入	4,737,007		5,250,000	700.00	4,414,804	
3. RSAI会費	214,000		162,000		138,000	
4.賛助会費収入	450,000		600,000		300,000	
5.補助金等	0		0		0	
6.大会参加費収入	846,000		960,000		833,000	
(年次大会)	846,000		960,000		833,000	
(アジア地域科学セミナー)	0		0		0	
7.大会開催寄付金	0		0		434,160	
8.利子収入	133				210	
9.雑誌販売(Back Number)	14,250		30,000		31,475	
10.その他			0		0	
			0		0	
			0		0	
収入合計	11,337,903		11,484,568	700.00	10,634,217	0.00
(繰越金を除く収入合計)	6,261,390		7,002,000	700.00	6,151,649	0.00
			7,051,500			

支出の部	2014決算		2015年度予算		2015決算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1. RUDS刊行・購読費	3,437,147		3,699,500		3,400,061	
(編集経費等)	9,900		550,000		85,500	
(購読費)	3,427,247		3,149,500		3,314,561	
2.年報刊行費	554,052		850,000		839,586	
3.大会開催費	1,393,921		1,310,000		1,288,585	
(年次大会)	1,393,921		1,300,000		1,288,585	
(アジア地域科学セミナー)	0		10,000		0	
4. RSAIへの送金	211,812		162,000		228,971	
5.坂下賞	121,600		121,000		121,600	
6.論文賞	18,576		26,000		18,576	
7. ニュースレター等印刷費	87,480		15,000		0	
8.一般事務費	413,219		320,000		248,412	
(郵送費)	111,844		120,000		105,700	
(消耗品等)	11,837		20,000		16,182	
(会議費・交通費等)	280,822		160,000		119,434	
(銀行手数料)	8,716		20,000		7,096	
9.事務局費	617,528		520,000		610,045	
(事務管理・事務員費)	433,650		340,000		426,050	
(会員管理システム費)	183,878		180,000		183,995	
10.予備費			28,000		0	
支出合計	6,855,335		7,051,500	0.00	6,755,836	
繰越金	4,482,568		4,433,068	700.00	3,878,381	
ドル貨円換算(手数料を除く)			49,500			
繰越金合計	4,482,568		4,482,568	700.00	3,878,381	
			-593,945	0	-604,187	

注:2001年度よりドル口座を廃止。海外会員の会費は、円に換金して円口座に入金。

監査の結果、決算は適正になされていることを認めます。

2016年7月9日

監査委員

中島 賢太郎

監査委員

坂井 誠人



2017年度 予算

応用地域学会2017年度予算書					
収入の部	2015年度決算		2016年度予算		2017年度予算
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨
1.繰越金	4,482,568		3,878,381		3,878,381
2.個人会費収入	4,414,804		5,275,000	700.00	5,368,500
3.RSAI会費	138,000		188,000		194,000
4.賛助会費収入	300,000		600,000		550,000
5.補助金(科学研究費補助等)	0				
6.大会参加費収入	833,000		2,300,000		1,105,000
(年次大会)	833,000		960,000		1,105,000
(地域科学セミナー)	0		1,340,000		0
7.大会開催寄付金	434,160		0		0
8.利子収入	210		0		0
9.雑誌販売(Back Number)	31,475		30,000		30,000
10.その他			0		
収入合計	10,634,217		12,271,381	700.00	11,125,881
(繰越金を除く収入合計)	6,151,649		8,393,000	55,400	7,247,500
(ドル貨を含む)			8,448,400		(ドル貨含む注2)
支出の部	2015年度決算		2016年度予算		2017年度予算
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨
1.RURDS購読費	3,400,061		3,731,400		3,713,300
(編集発行費)	85,500		550,000		550,000
(会員購読費)	3,314,561		3,181,400		3,163,300
2.年報刊行費	839,586		850,000		850,000
3.大会開催費	1,288,585		2,640,000		1,280,000
(年次大会)	1,288,585		1,300,000		1,280,000
(地域科学セミナー)	0		1,340,000		0
4.RSAIへの送金	228,971		188,000		194,000
5.坂下賞	121,600		122,000		122,000
6.論文賞	18,576		20,000		20,000
6.ニューズレター等印刷費	0		10,000		0
7.一般事務費	248,412		300,000		305,000
(郵送費)	105,700		120,000		120,000
(消耗品等)	16,182		15,000		20,000
(会議費・交通費等)	119,434		150,000		150,000
(銀行手数料)	7,096		15,000		15,000
8.事務局費	610,045		565,000		735,000
(事務管理・事務員費)	426,050		380,000		550,000
(会員管理システム費)	183,995		185,000		185,000
9.予備費			22,000		28,200
支出合計	6,755,836		8,448,400		7,247,500
繰越金	3,878,381		3,822,981	700.00	3,878,381
ドル貨円換算(手数料差引)			55,400		
繰越金合計	3,878,381		3,878,381		3,878,381
収支差	-604,187		0		0

注1: 2001年度よりドル口座を廃止。海外会員の会費納入は、すべて円に換金して円口座に入金。

注2: 2017年度予算より、海外会員ドル貨会費は、円貨に換算(換金手数料差引)し、個人会費に含める。